

NEW STYLE ONE MAKE RALLY



Vitz challenge

Season 2011
Round 2 in 高山

Official Rally Report



Rally Data

TRDヴィッツチャレンジ2011
Round 2 in 高山

主催	松本カースポーツクラブ (MCSC)
開催日	2011年6月19日 (日)
開催エリア	岐阜県内
スタート会場	アルコピア舟山高原スキー場
サービスパーク	アルコピア舟山高原スキー場
ゴール会場	久々野公民館ホール
セクション数	2
SS本数	6
SS-ータル距離	12.4km
総走行距離	約97km
参加台数	46台 クラス 1 7台 クラス 2 10台 クラス 3 8台 クラス 4 12台 クラス 5 4台 クラス 6 4台
完走台数	41台 リタイア3台、不出走2台
取材媒体	株式会社 芸文社 ブレイドライブ モータースポーツ誌 (8月発売号) 有限会社 青空 黒チャンネル テレビ愛知 (7/8放送予定) 株式会社 流行発信 月刊Cheek 女性情報誌 (8/23発売号)

「がんばろう!日本!」をモットーに!

ヴィッツチャレ2011シーズン開幕!! 46台が高山に集う!

2011年6月19日(日)、『TRDヴィッツチャレンジ2011 Round 2 in 高山』が岐阜県高山市周辺で開催された。

今シーズンは東日本大震災の影響により、「Round 1 in 蓼科」が7月に延期。今回の「Round 2 in 高山」が事実上の開幕戦となった。

震災の影響による参加台数の減少も心配されたが、結果的には昨年の高山ラウンドの参加台数を上回る46台がエントリー。その中には「がんばろう!日本!」などの応援ステッカーを貼った車両が多く見受けられ、スタート時のインタビューでは「日本にヴィッツチャレンジの元気を分けたい!」と意気込む選手の姿も見受けられた。

さらにトヨタ車クラスには新型ヴィッツ(NCP131)が2台新規参戦。NCP131クラス開設への期待も寄せられているようであった。



ゼロ・カーは、NCP131で全日本ラリー選手権に参戦中の天野選手が担う。天野選手の走りにヴィッツチャレンジャーからは歓声とも感嘆とも言える声が沸きあがった。また、今年は佐山裕亮がMCを担当。はつらつとした元気な声で選手たちを送り出した。



Official Web Site
<http://trdvitzchallenge.jp/>



アルコ피아舟山スキー場のサービスパドックにはの色とりどりのテントとのぼりが立ち並び、活気あふれるラリー会場となった。



「約1ヶ月延びた開幕戦が待ちどろしかった!」という声が多く寄せられた。ヴィッツチャレンジが多くのファンに支えられていることを改めて感じる。



SS1・4は完熟歩行によるレッキ。ミックスの路面に選手たちはライン取りなどの作戦を入念に行っていた。仲間たちとコースを練れるのも楽しい。



タイヤは引き続きダンロップワンメイク。今シーズンは「85-R」の他に「87R」が使用可能となった。



トヨタ自動車大学校からは2台のエントリー。スタート前車検時や途中1台がリタイヤとなった際も、先生の指導のもと、学生たちは懸命に現地サービスメカニックとして対応していた。



ギャラリーは、アルコ피아舟山スキー場でのグラベルSSを観戦。1分間隔でスタートする競技車を1段上にあるサービスパークから観戦した。



「がんばって!」と笑顔で声をかけてくれオフィシャル。初心者も多いため、ヴィッツチャレンジのオフィシャルは特に親切だ。



スタート地点には、朝6時30分のレキ受付時間を待たずして、カラフルなラリー車両が続々と集合。梅雨前線の影響が懸念されていた天気も、大会当日は晴れ間がのぞく、ラリー日和となった。

今年の高山ラウンドは、昨年までの丹生川(にゅうかわ)周辺からエリアを移し、高山市内から岐阜方面へ約20kmほど南に位置する「アルコ피아舟山高原スキー場」周辺での開催。

気になる今シーズンのクラス設定であるが、クラス1~5は昨年同様のヴィッツワンメイククラス。それぞれ7台、10台、8台、12台、学校対抗のクラス5には2校4台のエントリーがあった。また、2010年の最終戦で試験的に行われたトヨタ車クラスが、1600cc上下でクラス6・クラス7としてシーズンを通して設定され、今回はクラス6に4台のエントリーがあった。しかもそのうち内の2台が新型ヴィッツ(NCP131)であったりと、今シーズンのトヨタ車クラスはヴィッツチャレンジを先導するような興味深い内容となりそう。

SS コースレイアウト		
Section 1		
SS1	グラベル	0.5 km
SS2	ターマック	2.6 km
SS3	ターマック	2.6 km
Section 2		
SS4	ターマック	3.06 km
SS5	グラベル	0.5 km
SS6	ターマック	3.06 km

コースレイアウトは、「アルコ피아舟山高原スキー場」の駐車場を利用した、グラベル・ターマックのミックスされたSSと、スキー場へと通じる2本のターマック林道をSSとして使用し、非常にコンパクトなエリアでの効率的な内容となった。



全てのスケジュールをこなした競技車は、続々とゴール会場となる「久々野公民館ホール」に到着。残念ながらドライブシャフト破損等により3台がリタイヤとなってしまったが、エントラントの的確な行動とオフィシャルの素早い対処により、怪我なども無く、競技も最小限のタイムロスで継続され、競技は無事成立となった。



リタイヤも果敢に挑んだ結果であるから、これを糧にして今後もヴィッツチャレンジでたくさんの経験を積み、楽しくラリー競技を続けていただきたいものである。



初参加のみなさん



入賞者の再車検が終了するまでの時間を利用して、表彰式前の恒例となっている初参戦インタビュー、また、今回は女性ドライバーの紹介なども行われた。

また、今回CROを務めた全日本ラリードライバー石田雅之氏からは、エントラントから一番近いオフィシャル役であるCROをしっかり活用すること、また、ヴィッツチャレンジで勝つには「器用さ」が必要であることなど、先輩ラリードライバーとしてのアドバイスもいただいた。

まもなくして公式結果が発表され、表彰式が行われた。



Round 2 in 高山 CRO 石田雅之氏



Class 1

1500cc (NCP91) オープンクラス

優勝	中村祐太／宮川裕之
2位	松岡 淳／武田宏一



Class 2

1500cc (NCP91) チャレンジクラス

優勝	早川正資／久保田繁史
2位	佐藤光理／五十嵐貴光
3位	戸塚和幸／藤林直樹



Class 3

1000cc (SCP10) オープンクラス

優勝	毛受広子／柿澤廣幸
2位	野村 長／山岸佑也



Class 4

1000cc (SCP10) チャレンジクラス

優勝	細谷裕一／高橋直美
2位	滝 直樹／花川俊一
3位	走出芽美／石川恭啓



Class 5

1000cc (SCP10) 学生対抗クラス

優勝	長岡技術大学 (伊豆野健太／星野 郁)
----	------------------------



Class 6

1600cc以下のトヨタ車クラス

優勝	中村平祐／畠山貴之
2位	山口 忍／足立さやか
3位	石津紗結子／片岡智子



主 幹：TRDヴィッツチャレンジ事務局（株式会社プロクルーズ内）

次戦「Round 1 in 蓼科」(5/15からの延期)は、7/17(日)長野県・立科町女神湖周辺にて開催致します。